

Arthuriana Japonica: Newsletter No. 34

October 2021

国際アーサー王学会日本支部会報
Société Internationale Arthurienne Section Japonaise

目次

I. 2020年度年次大会報告	1
年次大会プログラム	1
総会議事録	2
研究発表要旨	3
シンポジウム要旨	3
II. 電子化について	4
III. 学会メーリングリストについて	4
IV. 会計からのお願い	4
V. 学会サイトについて	5
VI. 第35回年次大会について	5
VII. 研究発表・シンポジウム企画募集	5
VIII. 会員名簿に関するお願い	5
IX. 文献情報	5
英文学	6
独文学	7
仏文学	7
中世ラテン・イタリア文学・その他	9

I. 2020年度年次大会報告

日本支部の2020年度年次大会は、下記の通り開催されました。ご参加いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

- [日時] 2020年12月12日（土）14:00より
- [場所] オンライン（Zoom）
- [大会費] なし
- [懇親会] なし

年次大会プログラム

*開場（13:30）	
*「アーサー王伝説の魅力	～英独仏の現場から語る」
副支部長 高木眞佐子（杏林大学）	
司会： 細川哲士（立教大学名誉教授）	
「アーサー王伝説の起源と今日にいたる発展」	高宮利行（慶應義塾大学名誉教授）
「ドイツにおけるトリスタン物語」	一條麻美子（東京大学総合文化研究科）
「『狐物語』とトリスタン伝説、そしてアーサー王伝説」	高名康文（成城大学）
「『ガウェイン卿と緑の騎士』」	岡本広毅（立命館大学）

*会員研究動向・情報交換フォーラム（16:15～）

*支部総会（16:30～）

今回は初のオンライン開催であるため、会員のみ参加可といたしましたが、多くの方にご出席いただきました。特にご発表いただいた先生方と、司会を引き受けてくださった細川先生のお力添えなくしては実現できませんでした。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

（文責：小宮真樹子）

総会議事録

* 報告事項

(1) 2020年度の活動について

コロナウィルスの影響により、今年度は初めてオンライン大会を開催するはこびとなった。とりわけ発表者の皆さまには多大な負担をお願いすることになったが、ありがたいことに海外からも含めて多くの参加者があった。

(2) 書誌活動報告

2019年1月～12月の日本支部における業績は、14件の報告があった。また、ニュースレターも岡田真知夫先生のブログ紹介により、非常に充実した内容となった。

(3) 学会サイト「アーサー王伝説解説」について

2020年には、以下の記事が追加され、より読み応えのあるコンテンツとなった。

「Prose Brut Chronicle—『散文ブルート』におけるアーサーとその影響—（高木眞佐子）」

「中世仏語ロマンス『Le roman de Silence』（小川真理）」

「『ティトゥレル』Titrel—「誠のある真実のミンネ」と明かされない謎—（浜野明大）」

「聖杯（横山安由美）」

「『トリスタン』（ゴットフリート・フォン・シュトーラースブルク）（一條麻美子）」

(4) 2021年度国際大会について

第26回国際大会は、イタリアのカターニア大学で、2021年7月26日から31日に開催予定。（オンライン開催に変更された。）

(5) 新支部長の発表

2020年秋に行われた支部長選挙の結果について、選挙管理委員である辺見葉子先生（慶應義塾大学）と徳永聰子先生（慶應義塾大学）により、嶋崎陽一先生（龍谷大学）に代わり、小路邦子先生（慶應義塾大学非常勤）の当選が発表された。

また小路邦子先生より当選の挨拶があった。

（その後、幹事会新役員が以下の通り決定した。
副会長：嶋崎陽一（龍谷大学）、庶務：松原文（立教大学）、会計：田中ちよ子（中央大学兼任

講師）、仏文担当書誌：川口陽子（神戸大学非常勤講師）、英文担当書誌：吉久保肇子（芝浦工業大学）、獨文担当書誌：伊藤亮平（松山大学）、Web委員長：岡本広毅（立命館大学））

* 審議事項

(1) 2020年度決算報告（2019年12月1日～2020年11月30日）

会計担当幹事の小川直之先生より会計収支決算が作成され、嶋崎会長の代読により報告された。

収入

項目	収入額
年会費（86件）	258,000
寄付金（0件）	0
入会金（1件）	3,000
賛助会員費（2件）	10,000
小計1	271,000
【支部大会関連収入】	
大会参加費	35,000
懇親会費	156,000
小計2	191,000
2019年度からの繰越金	1,106,935
普通預金口座利子	4
総計	1,568,939

支出

項目	支出額
学会誌刊行・発送費（未着）	210,600
ホームページ関連費用	6,974
事務用品代・雑費	540
通信費（含振込手数料）	37,650
小計	269,764
【支部大会経費】	
学生アルバイト代	16,000
懇親会費用	165,000
小計	181,000
2021年度への繰越金	1,118,175
総計	1,568,939

(2) 2021年度予算案提出（2020年12月1日～2021年11月30日）

続いて2021年度予算案が提出され、会員の承認を受けた。

収入

項目	収入額
年会費(会員数 75名@3,000円)	225,000
寄付金	10,000
入会金	9,000
賛助会員費（2件）	10,000
小計1	254,000
【支部大会関連収入】	
大会参加費	0
懇親会費	0
小計2	0
2020年度からの繰越金	1,118,175
普通預金口座利子	10
総計	1,372,185

支出

項目	支出額
学会誌刊行・発送費	210,735
ホームページ関連費用	9,000
事務用品代・雑費	15,000
通信費(含振込手数料)	20,000
小計1	254,735
【支部大会経費】	
学生アルバイト代	0
懇親会費用	0
事務用品代・雑費	0
小計2	0
2021年度への繰越金	1,117,450
総計	1,372,185

(3) 新入会者承認について

以下3件の入会が承認された。

佐藤 紗香氏（推薦人：小宮真樹子・岡本広毅）

趙 泰昊氏（推薦人：高宮利行・伊藤盡）

都地 沙央里氏（推薦人：向井剛・小宮真樹子）

（文責：小宮真樹子・松原文）

2020年度年次大会研究発表要旨

Sir Gawain and the Green Knight を紐解く

—“Unknotting” Gawain

岡本広毅（立命館大学）

J. R. R. Tolkien/E. V. Gordon版（Norman Davis改訂）『ガウェイン卿と緑の騎士』のグロッサリーには、“fasten”（「しっかりと留める・締める」）を意味する語が散見される。これは偶然ではなく、騎士／人間の限界を占う本作のテーマと関連するのではないか。ガウェインは緑の騎士との約束をはじめ、信義・礼節・倫理など様々な制約に縛られ不誠実な騎士へと転落する。この点で、ガウェインの盾に描かれる紋章 “be endeles knot” 「終わりなき模様=五芒星形」 (l. 630) は示唆に富む。騎士の完徳を称える「結び目」は、その後の「ほつれ」を劇的に印象づけ、代わって冒険の印となる「緑の帯」の意味を問う。冒険の帰路、ガウェインが後者を「不誠実の証」として固く結ぶとき、彼は新たな「囚われの身」となっているのではないか。騎士は「結び」と「解れ」をエンドレスに繰り返すことで、自己を規定するのだ。本発表ではこうした騎士のあり様を、“fasten” に関する語彙の分析を通して考察した。

シンポジウムの報告

細川哲士（立教大学）

今回のシンポジウムは、あらかじめ、発表要旨の動画が参照できたので、「予習」が可能になり、おかげさまで、発表がよりよく理解できたと感謝している。発表は計4つ、分野もテーマも多彩であった。

まず高宮利行さんの「アーサー王伝説の起源と今日にいたる発展」はその名の通りアーサー王文学の変遷と研究史を、わかりやすく、楽しく、辿ったもので、初学者から専門家までを見据えているから、もっと多くの人に見てもらおう。動画が、当学会のウェブサイトの解説で見られるようにならないだろうか。

一條麻美子さんの「ドイツにおけるトリスタン物語」は、騎士本系の「ゴットフリート・フォン・シュトラースブルクのトリスタン物語」におけるマルケ王の性格に注目し、王が、二人の恋人に対し、他の版本にはみられないような複雑な心の動きを示す、という事を美しい写本の挿画などを援用して説いたもの。

高名康文さんの「『狐物語』とトリスタン伝説、そしてアーサー王伝説」は、これらの作品中に出て来るプロットが、作品相互が影響関係下にあることを前提にしないと、理解し難い、という例を、いくつかあげ、間テクスト性の問題を、わかりやすく、面白く、語った。これは今日まで誰も成功しなかった、中世における作品受容者の問題を、解く手掛かりになるはずで、高名さん自身の、詩作品のテーマとも通底しているから、今後の発展を期待しよう。

岡本広毅さんの「『ガウェイン卿と緑の騎士』」は、テクスト読みの冴えを見せた、印象深い発表だった。この作品には「結ぶ」ということを表す類語が、多数見られることに注目し、騎士が奥方から送られた紐を解くという、物語の結節点に至るモーメントを追求するものである。これを理解するためには、本学会のウェブサイトの、岡本さん自身によるこの『物語』の解説が役に立つ。

発表につづいて質疑が行われたが、それらを強引にまとめれば、アーサー王物語の各時代における受容の問題ということになろう。大きすぎてもわからに回答が得られないようなものだったので尻切れとんぼに終わってしまったのは残念。そこで、責任上、私見を添えて置く。

1. アーサー王の物語の全貌を初めて明らかにしたのはFrancisque Michel (1809-1887) のアングロ・ノルマン関係の資料集である。(1835-1839)
2. 中世最大の作家と今日見なされているChrétien den Troyes を世に広めたのはGustave Cohen (1879-1956) の博士論文(1931)である。
3. “amour courtois” の「発明者」はJean Frappier (1900-1974)である。

II. 電子化について

国際アーサー王学会日本支部では、会員の皆様への連絡手段に、メーリングリスト等の電子媒体を活用しております。ただし、ご希望の方へは郵送での連絡を続けております。まだご回答いただいている場合、事務局 (office@arthuriana.jp) までご連絡くださいますようお願ひいたします。

III. 学会メーリングリストについて

現在、学会員用メーリングリストは間接投稿とさせていただいております。投稿を希望する場合、まずは事務局まで文案をお知らせください。役員で確認後、配信いたします。

また、希望の方には日本支部よりメールアドレスを新規発行いたします。この件も事務局までご連絡ください。

IV. 会計からのお願い

2021年度分（ならびにそれ以前の未納分の）会費の納入をお願い申し上げます。会費は別送の「払込取扱票」にてお支払いいただくか、下記口座に直接お振込みください。

（郵便振替口座番号）

加入者名：国際アーサー王学会日本支部
ゆうちょ銀行口座番号：00250-6-41865

（ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振込み）

加入者名：国際アーサー王学会日本支部
金融機関：ゆうちょ銀行（コード：9900）
店名：〇二九（ゼロニキュウ）店（店番：029）
預金種目：当座
口座番号：0041865

年会費は3,000円です。また新入会員の入会時には入会金3,000円を頂いております。新規入会希望者をご推挙いただく際には、希望者にその旨お伝えくださいますようお願ひいたします。

日本支部では、一口1,000円からの寄付金を隨時募集しております。ご寄付いただけます場合、「寄付〇口」とお書き添えの上、同封の払込票を

ご利用のうえ年会費とともに振込みいただくか、直接口座にお振込みください。皆さまの温かいご支援をお待ち申し上げます。（会計：田中ちよ子）

【お知らせ】会費納入が5年連続して確認できなかった場合、退会扱いとさせていただきますのでご留意ください。（この手続きに関しましては、2016年度第1回幹事会にて確定されました。）

V. 学会サイトについて

学会公式サイトでは、支部大会や国際大会のお知らせを掲載しております。「アーサー王伝説解説」の項目も引き続き充実化を目指し、現在数名の先生方に執筆をご依頼中です。

学会公式ツイッター（@inter_arthur_jp）でも随時情報の発信中。写本や映画、新刊などを幅広く紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
学会公式サイト

<http://arthuriana.jp/index.php>

学会公式ツイッター

https://twitter.com/inter_arthur_jp

（Web委員長：岡本広毅）

VI. 第35回年次大会について

第35回年次大会は昨年度に引き続き、オンラインで開催されます。
(詳細は大会資料をご覧ください。)

日時：2021年12月11日（土）13:30 開会（入室可）

会場：Zoom

Web上の支部大会の準備を進めております。

VII. 研究発表・シンポジウム企画募集

日本支部では随時、支部大会での研究発表・シンポジウム企画を募集しております。ご希望・ご提案がございましたら庶務までお寄せください。シンポジウムは同年7月末、研究発表は同年8月末を締切とし、時期に従って当該年度または次年度の大会に組み入れて参ります。

VIII. 会員名簿に関するお願い

名簿記載事項に変更があった場合は、速やかに庶務までお知らせください。なお会員に配布される名簿に関しては、一部の事項（所属・住所・電話／ファックス番号・メールアドレス）を未掲載にすることも可能です。ご希望がございましたら事務局までお申し出ください。

IX. 文献情報

ここには、当学会会員であるか否かに関わらず、国内で出版されたものを中心に西洋中世文学関連の刊行物を紹介しています。

英文学（書誌担当：吉久保肇子）

＜研究（単行本）＞

菊池清明、岡本広毅編著、『中世英語英文学研究の多様性とその展望（Diversity of Studies in Medieval English and Literature）』（春風社）、2020年、650p.

木村正俊『ケルト全史』（東京堂出版）、2021年、544p.

春燈社編『神話の絵画史』（辰巳出版）、2021年、144p.

高畠吉男『アイルランド妖精物語』（戎光祥出版）、2021年、244p.

武内一忠『ペトログリフが明かす超古代文明の起源』（玄武書房）、2020年、180 p.

武部好伸『ヨーロッパ古代「ケルト」の残照』（彩流社）、2020年、220 p.

守屋靖代、Grammatical Templates in the Second Half-Line of Middle English Alliterative Verse（丸善プラネット）、2019年、250 p.

＜研究（雑誌・紀要論文等）＞

ITO-MORINO Satoko, 'llyma dechreu

mabinogi : The Mabinogion from the Antiquarian Metropolitan to the Industrial Merthyr' Celtic Forum : the annual reports of Japan Society for Celtic Studies（日本ケルト学会）23, 2021, pp.5-16.

小宮真樹子「アーサー王伝説における騎士と狂気」、『幻想と怪奇の英文学 IV』（春風

- 社)、東雅夫・下楠昌哉編、2020年、pp. 318-337.
- 趙泰昊 (JO Thae-Ho), 'The Performativity of Racial-Religious Identity: The Representation of Saracens in Middle English Romances', *Études Médiévales Anglaises*, 95, 2020, pp.7-40.
- 鶴岡真弓「アイルランド発「ケルト三部作」アニメとジャック・B・イエイツ:「ケルティック・リヴァイヴァル」100年の文脈」『Art anthropology』(多摩美術大学芸術人類学研究所) 16号、2021年、pp.32-35.
- 長谷川千春「騎士社会からの逸脱と復帰:マロリーの「トリストラムの物語」における狂気からの回復」『大東文化大学紀要. 人文科学』(大東文化大学) 57号、2019年、pp.1-12.
- 不破有理「『アーサー王の死』(1816年)の印刷者 Robert Wilks—未刊行資料から伝記的再構築の試み(その1)」、『慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学』(慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会) 74号、2021年、pp. 1-42.
- 松井倫子「Gawain-詩人の詳細描写の手法とその不足について- Sir Gawain and the Green KnightにおけるGawain郷のHautdesert城入場の場面」、『中世英語英文学研究の多様性とその展望 (Diversity of Studies in Medieval English and Literature)』(春風社)、菊池清明・岡本広毅編、2020年、pp. 305-315.

<翻訳>

- ジェフリー・チョーサー(池上忠弘監修・翻訳)『カンタベリ物語』(悠書館)、2021年、1033p.
- 森野聰子訳『ウェールズ語原典訳マビノギオン』(原書房)、2019年、560 p.

<書評>

- 小川真理「書評:『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか:変容する中世騎士道物語』岡本広毅・小宮真樹子編、みずき書林、2019年〔以下、『いかにしてアーサー王は』〕」、『立命館アジア・日本研究学術年報』(立命館大学アジア・日本研究所) 1号、2020年、pp.138-140.

- 下楠 昌哉「書評:『いかにしてアーサー王は』」、『英文学研究』(一般財団法人日本英文学会) 97号、2020年、pp.56-60.
- 多ヶ谷有子「書評:『いかにしてアーサー王は』」、『チョーサー研究会会報=Bulletin of the Society for Chaucer Studies』(チョーサー研究会事務局) 7号、2019年、pp.13-15.
- 新居明子「アーサー王伝説に親しむための五冊」『アルテス・ムンディ』(名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター) 5号、2020年、pp.161-164.

<その他>

- 「英国王と騎士の物語」『時空旅人』(三栄書房)、1月号 Vol.59、2021年.
- かみゆ歴史編集部編『ゼロからわかる英雄伝説ヨーロッパ中世～近世編』(イースト・プレス)、2020年.
- かみゆ歴史編集部編『ゼロからわかるケルト神話とアーサー王伝説』(イースト・プレス)、2019年.
- 斎藤洋『キャメロットの亡靈(アーサー王の世界)』(静山社)、2021年.
- フィリップ・リーヴ(井辻 朱美翻訳)『アーサー王ここに眠る』(東京創元社)、2021年.

独文・北欧文学(書誌担当:伊藤亮平)

- <研究(単行本)>
楠戸一彦『ドイツ中世後期の剣術と剣士団体』(溪水社)、2020年.

<研究(雑誌・研究紀要等)>

- 青木三陽「死神裁判:中世ドイツ文学における死との対話の歴史」『西洋文学研究』(大谷大学西洋文学研究会) 39号、2019年、pp. 1-8.
- 一條麻美子「『トリスタン』における原典言及:maere/aventure/istorjeを巡って」『超域文化科学紀要』(東京大学大学院総合文化研究科) 25号、2020年、pp. 7-20.
- 伊藤亮平「ナイトハルトのリートに見られる暴力的な笑い」嶋崎啓編『中世的身体イメージと遊戯性—宮廷文化に内在する逸脱の傾向』(日本独文学会叢書 143)、2020年、pp. 33-46.

嶋崎啓「ヴィッテンヴィーラー『指輪』における
宮廷的な卑俗な身体」『中世的身体イメージと
遊戯性一宮廷文化に内在する逸脱の傾向』（日本
独文学研究叢書 143）、2020 年、pp. 47-57.
寺田龍男「中世ドイツ文学の写本伝承における本
文流動の研究」『北海道大学大学院教育学研究
院紀要』（北海道大学大学院）137 号、2020
年、pp. 137-143.
松原文「ガーヴァーンの秘密主義と triuwe—宮廷
の美德のジレンマとパルチヴァールによる解決
一」『詩・言語』（東京大学大学院ドイツ語ド
イツ文学研究会）86 号、2019 年、pp. 1-24.
横山由広「ハルトマン『エーレク』『イーヴェイ
ン』のヴィルント『ヴィーガーロイス』における
受容の 2 側面：平叙文における定動詞の位置
とアルトウース宮廷の名称」『慶應義塾大学日
吉紀要. ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学）
59 号、2019 年、pp. 1-38.
渡辺伸治「ニーベルンゲンの歌における *komen*
の用法：同じ環境で現れる *gân* との対照の観点
から」、『言語文化共同研究プロジェクト
(2019)』（大阪大学大学院言語文化研究科）
2020 年、pp. 31-40.
渡辺伸治「ニーベルンゲンの歌における *gan* の用
法：現代語訳では *kommen* で訳されている例を
対象に」『言語文化研究』（大阪大学大学院言
語文化研究科）45 号、2019 年、pp. 125-142.
渡邊徳明「『ニーベルンゲンの歌』と『ヴォルム
スの薔薇園』における遊戯性の意味—ホモル
デンスのコスモロジー」、『中世的身体イメ
ージと遊戯性一宮廷文化に内在する逸脱の傾向』
(日本独文学研究叢書 143)、2020 年、pp. 3-
20.

北欧文学

＜研究（雑誌・紀要論文）＞

林邦彦「『マントのリームル』における、アーサー
王と臣下の騎士達との関係をめぐって」『人文
研紀要』（中央大学人文科学研究所）93 号、
2019 年、pp. 213-238.

仏文学（書誌担当：川口陽子）

＜研究（単行本）＞

篠田知和基『世界風土神話』八坂書房、2020 年、
224 p.
高木麻紀子『ガストン・フェビュスの『狩猟の
書』』（中央高論美術出版）、2020 年、616
p. [第 37 回(2020) 渋沢・クローデル賞奨励賞
受賞]

＜研究（雑誌・研究紀要等）＞

岡田真知夫ブログサイト ISLE D'avalon
<<http://mac-okada.cocolog-nifty.com/blog/>> に
掲載した記事。[] 内は掲載日。
＜隠された主語＞(1-2) [2020.10.29]
-『シランス物語』vv. 329-332 の解釈。主語は悪
魔か？
＜prié-je＞(1-2) [2021.3.21]
-動詞 *prier* - *proiier* 「祈る、願う」の倒置形 1 人
称単数について。流布版『メルラン続編』に拾
える *proiie je*, ベルールの『トリスタン』に拾
える *je/ge prié*などを検討。固有名 *Yvain*
(*Yuain*) - *Yevain* (*Yeuain*) - *Ywein* の発音につ
いても。
＜パラミデス＞[2021.5.9]
-トリスタンの恋敵にして *Beste Glatissant*
(*Questing Beast*) を追い続けたサラセン人騎士
の名前について。
小川直之「武勲詩におけるカール大帝の光明面
(ライトサイド) と暗黒面 (ダークサイド)
(特集 カロリング期の記憶)」『西洋中世研
究』（西洋中世学会）12、2020 年、pp. 64-
78.
片山幹生「タイトルに見る『葉陰の劇』の重層
性」、*Études françaises*（早稲田大学文学部
フランス文学研究室）28 号、2021 年、pp. 1-
19.
高名康文「フランス中世文学における規範と逸脱—
『シャルルマーニュの旅行』における「ほら」
(*gabs*)」、日本独文学研究叢書 143『中世
的身体イメージと遊戯性一宮廷文化に内在する
逸脱の傾向』（嶋崎啓編）、2020 年 10 月 17
日、pp. 21-31.
SASAKI, Shigemi, « Testament du héros et mort
des amants », *Miroirs arthuriens entre
images et mirages. Actes du XXIV= Congrès
de la Société Internationale Arthurienne*

(Brepols Publishers n.v., Turnhout), édités par GIRBEA, Catalina, VOICU, Mihaela, PANZARU, Ioan, ANTON, Corina et POPESCU, Andreea, « Culture et société médiévaux » (CMS.34), 2020, pp.403-414.

[『散文トリスタン物語』 (Le Roman de Tristan en prose, éd.Philippe Ménard et al., 「流布本 I-II-III」 (『前史』を含む)) を対象とし、収録は「国際アーサー王学会」、『議事録』 (Actes)。]

瀬戸直彦「ダウデ・デ・プラダスの「教訓詩」(PC 124,2)について - tozeta という単語の意味 -」早稲田大学大学院文学研究科紀要 66 号、2021 年、pp. 271-290.

宮下志朗「いにしえ人の日記(2) オオカミは森の外に出る: 『パリの住人の日記』とヴィヨン」、『ふらんす』2020 年 5 月(95-5)号、2020 年、pp. 64-65.

宮下志朗「いにしえ人の日記(3) 「ぐりぐり」と疫病」、『ふらんす』2020 年 6 月(95-6)号、2020 年、pp. 64-66.

宮下志朗「いにしえ人の日記(4) モンテニュの「家事日録」から」、『ふらんす』2020 年 7 月(95-7)号、2020 年、pp. 64-66.

宮下志朗「いにしえ人の日記(5) マニエリスム画家ポントルモの手記」、『ふらんす』2020 年 8 月(95-8)号、2020 年、pp. 64-66.

宮下志朗「いにしえ人の日記(6) マニエリスム画家ポントルモの手記(2)」、『ふらんす』2020 年 9 月(95-9)号、2020 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(7) マニエリスム画家ポントルモの手記(3)」、『ふらんす』2020 年 10 月(95-10)号、2020 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(8) マニエリスム画家ポントルモの手記(4)」、『ふらんす』2020 年 11 月(95-11)号、2020 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(9) マニエリスム画家ポントルモの手記(5)」、『ふらんす』2020 年 12 月(95-12)号、2020 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(10) 3 つの「パリ日記」(1)」、『ふらんす』2021 年 1 月(96-1)号、2021 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(11) 3 つの「パリ日記」(2)」、『ふらんす』2021 年 2 月(96-2)号、2021 年、pp. 66-68.

宮下志朗「いにしえ人の日記(12) 3 つの「パリ日記」(3)」、『ふらんす』2021 年 3 月(96-3)号、2021 年、pp. 66-68.

武藤奈月「エニッドとペルスヴァル、クレチアン: 『エレックとエニッド』と『聖杯の物語』における視点の交錯」、『仏語仏文学研究』(東京大学仏語仏文学研究会) 53 号、2020 年、pp. 3-23.

渡邊浩司「『フロリヤンとフロレット』における妖精モルガーヌ」、『仏語仏文学研究』(中央大学仏語仏文学研究会) 53 号、2021 年、pp. 33-64.

渡邊浩司「妖精メリュジーヌとガロ=ローマの母神」、『ふらんす』(白水社) 2021 年 7 月(96-7)号、2021 年、pp. 10-11.

＜研究書の翻訳＞

フィリップ・ヴァルテール (渡邊浩司・渡邊裕美子訳) 『ユーラシアの女性神話—ユーラシア神話試論 II』(中央大学出版部)、2021 年、278p. [主として中世期の文献に登場する「女神」や女神的存在を、ユーラシア神話の観点から分析した 12 編の論考をまとめた論文集。

2019 年 7 月に刊行された『英雄の神話的諸相』に続く、『ユーラシア神話試論』の第 2 卷。4 部構成の本書では、第 1 部でケルト文化圏の女神が見せる 3 者 1 組の姿、第 2 部でヨーロッパの女神の動物への変身、第 3 部で異界に位置する女神の住処が取り上げられ、第 4 部で妖精メリュジーヌとトヨタマヒメなどの日本とヨーロッパの女神および女神的存在が比較検討されている。]

＜翻訳＞

フィリップ・ヴァルテール (渡邊浩司・渡邊裕美子訳) 「ソルゲンナー・イルランドから来たアザラシ女」、『中央評論』(中央大学) 72 卷 3 号(通巻第 313 号)、2020 年、pp.140-150.

フィリップ・ヴァルテール (渡邊浩司・渡邊裕美子訳) 「鮫女と 9 番目の波—『カレワラ』第 5

章」、『中央評論』（中央大学）72卷4号（通巻第314号）、2021年、pp.124-136.

ジャン=シャルル・ベルテ（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「『ゴーヴァンの幼少年期』—失われた物語の断片群（第2部と第3部）」、『神話と昔話・その他』（楽瑠書院）、篠田知和基編、2020年、pp.79-93.

ジャン=シャルル・ベルテ（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「『ゴーヴァンの幼少年期』—失われた物語の断片群（第1部①）」、『中央評論』（中央大学）73卷1号（通巻第315号）、2021年、pp.148-162.

ジャン=シャルル・ベルテ（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「『ゴーヴァンの幼少年期』—失われた物語の断片群」（第1部②）、『中央評論』（中央大学）73卷2号（通巻第316号）、2021年、pp.75-91.

ジャン=シャルル・ベルテ（渡邊浩司訳）「ウェールズ語名グワルフマイ、ラテン語名ワルウェンおよびグワルグアヌスと、ゴーヴァンの名の語源」、『ケルティック・フォーラム』（日本ケルト学会）23号、2021年、pp.31-42.

アースディース・ローサ・マグヌースドーチティル（渡邊浩司訳）「スカンディナヴィアにおける『グラアルの物語』の受容」、『仏語仏文学研究』（中央大学仏語仏文学研究会）53号、2021年、pp.157-182.

渡邊浩司、« Le chat dans Kokon chomon-jū. Trois anecdotes extraites de l'oeuvre compilée par Tachibana no Narisue et traduites du japonais en français », IRIS, 40, 2020, <https://publications-prairial.fr/iris/index.php?id=1331> [橋成季編『古今著聞集』所収、猫の怪異譚3編の仏訳。前書きでは、『日本靈異記』、『枕草子』、

『源氏物語』に出てくる猫のエピソードを紹介。脚注の1つでは、中世ヨーロッパの「アーサー王物語」の例として、『アーサー王の最初の武勲』に出てくるアーサー王によるローザンヌ湖の怪猫退治に言及。共訳者・吉野朋美、オリヴィエ・ロリヤール。】

＜書評＞

椿侘助「本の紹介 フィリップ・ヴァルテール著、渡邊浩司・渡邊裕美子訳『アーサー王神話大辞典』(2019)」『中央評論』（中央大学）71卷1号、2019年、pp.120-126.

＜その他＞

フランス語教育歴史文法派（有田豊・ヴェスイエール、ジョルジュ・片山幹生・高名康文）「歴史で謎解き！フランス語文法」「ことばのコラム」（三省堂辞書ウェブ編集部）1-23, 2019.4-2020.10, 2020.12-2021.3（現在も連載中）<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/columncat/言語/歴史で謎解き！フランス語文法>

中世ラテン文学・イタリア文学・その他

＜研究（単行本）＞

沓掛良彦『オルフェウス変幻：ヨーロッパ文学にみる変容と変遷』（京都大学学術出版会）、2021年、553p.

＜研究（雑誌・研究紀要等）＞

沓掛良彦「『『イリアス』への招待』を読んで：一読者としての感想」、『ペディラヴィウム：ヘブライズムとヘレニズム研究：原始キリスト教とヘレニズム文庫紀要』74号、2020年、pp.70-88.

編集・発行

国際アーサー王学会日本支部事務局

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-3 4-1 立教大学文学部 松原文研究室内

Email: office@arthuriana.jp

メーリングリスト：members@ml.arthuriana.jp

学会ウェブサイト：<http://www.arthuriana.jp/index.php>